

年 頭 所 感

会 長 長 瀬 清



おめでとうございます。令和2年の新年を、皆様ご家族お揃いで、新たな気持ちでお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、天皇のご退位で30年続いた平成が終わり、新天皇がご即位され、新しい令和の時代が始まりました。

その後、間もなく台風の季節が訪れ、15号、17号、19号、21号と矢継ぎ早に九州、関東、東北の広範囲を嵐が襲い、大規模な風水害に見舞われました。死者多数、倒壊・流失家屋数知れずという大災害で、一刻も早い復興を祈念いたすと共に、災害防止のためにもCOP25（気候変動対策に関する国際会議）の早期締結を願うところです。

一方、それと時を同じくしてラグビーのワールドカップ世界大会が全国各地で行われ、全国民が熱狂の渦に巻き込まれ高揚し、復興の意欲を押し上げてくれたことは幸いでした。北海道にとってはもう一つ大きな出来事がありました。今年の東京オリンピックのマラソンと競歩の開催地が札幌市に変更になったことです。降って湧いたような経過ですが、成功裏に競技を終えるために、道民総てが力を合わせ頑張ろうとの意気込みがわき上がっています。

医療界では、医師養成に励んでも一向に医師充足感が得られず、相変わらず多くの地域で医師不足、偏在が叫ばれています。加えて新専門医制度の開始、医師の働き方改革議論、医療計画施行、地域医療構想と構想調整会議の推進、公的・公立病院のあり方等今後の医療に関わる重要事項が目白押しです。特に厚労省より示された、424の公立および公的病院の再編統合の検討は大きな波紋を投げかけました。無駄を省き効率的に病院運営をするためとしていますが、地域住民に不安を抱かせないよう、当該地区の調整会議機能を働かせて適切な対処をして欲しいものです。

目下本年4月に改定される診療報酬の成り行きが注目されています。改定のあり方によっては、厳しい経済情勢のもとで、医療機関の存立が危うくなることが危惧されますし、これから決まる働き方改革の状況によっては、救急や夜間の時間外診療が不可能となる事態も生じます。医療機関が安定した経営

ができなければ、良質の医療の提供ができません。目前に迫った2025年の超高齢社会の到来、その後にくる急速な人口減少、また、高額な薬剤・機器の開発による医療費の高騰を考えると、現在の世界に冠たる日本の医療保険制度が耐えられるかが心配です。加えて、人生100年時代に対し全世代型社会保障の検討も始まっています。

近年の日本人のノーベル賞受賞、特に医学生物学分野では目覚ましいものがあります。本庶佑先生の研究開発された抗がん剤は、多くのがん患者さんに大きな希望と勇気をもたらしました。日本の医療保険制度で、誰もが安心してこの恩恵を受けることができるようにしたいものです。

世界の情勢をみますと、局地的争いが少し落ち着いたかに見えますが、火種が消失したわけではありません。4月には韓国の総選挙、11月には米国の大統領選挙が行われます。我が国にとっては関係深い両国ですから、結果によっては大きな影響が懸念されます。米国と中国や、北朝鮮の関係が微妙であり、間に立つ日本の果たす役割は大きいものがあります。

日本医学会総会が創設120年となり、昨年5月に第30回大会を愛知県を中心に開催されました。北海道では本年10月に北海道医学大会100回記念大会を開催いたします。道内三大学と協力し、同時期に開催される各種医学会地方会を包含する今大会は、全国でも珍しい特異な大会と言われております。今年は節目の100回記念として、北海道医師会が会頭として担当いたします。多数の参加者を得て活気溢れた大会にしたいと考えています。北海道医師会会員の多くの参加をいただくことを願っています。応援よろしくお願いいたします。

北海道の医療環境、医学的基盤を高めていく上で、北海道で働く医師の協力、団結が必要です。有病率、喫煙率、検診率、医療費等医学的統計を見ても、他県に遅れをとっているのが実情です。今年は総ての面で少しでも上向きになるよう頑張りたいものです。

本年もまた医師会会員の皆様の温かくて強力なバックアップを心からお願い申し上げ新年の挨拶いたします。